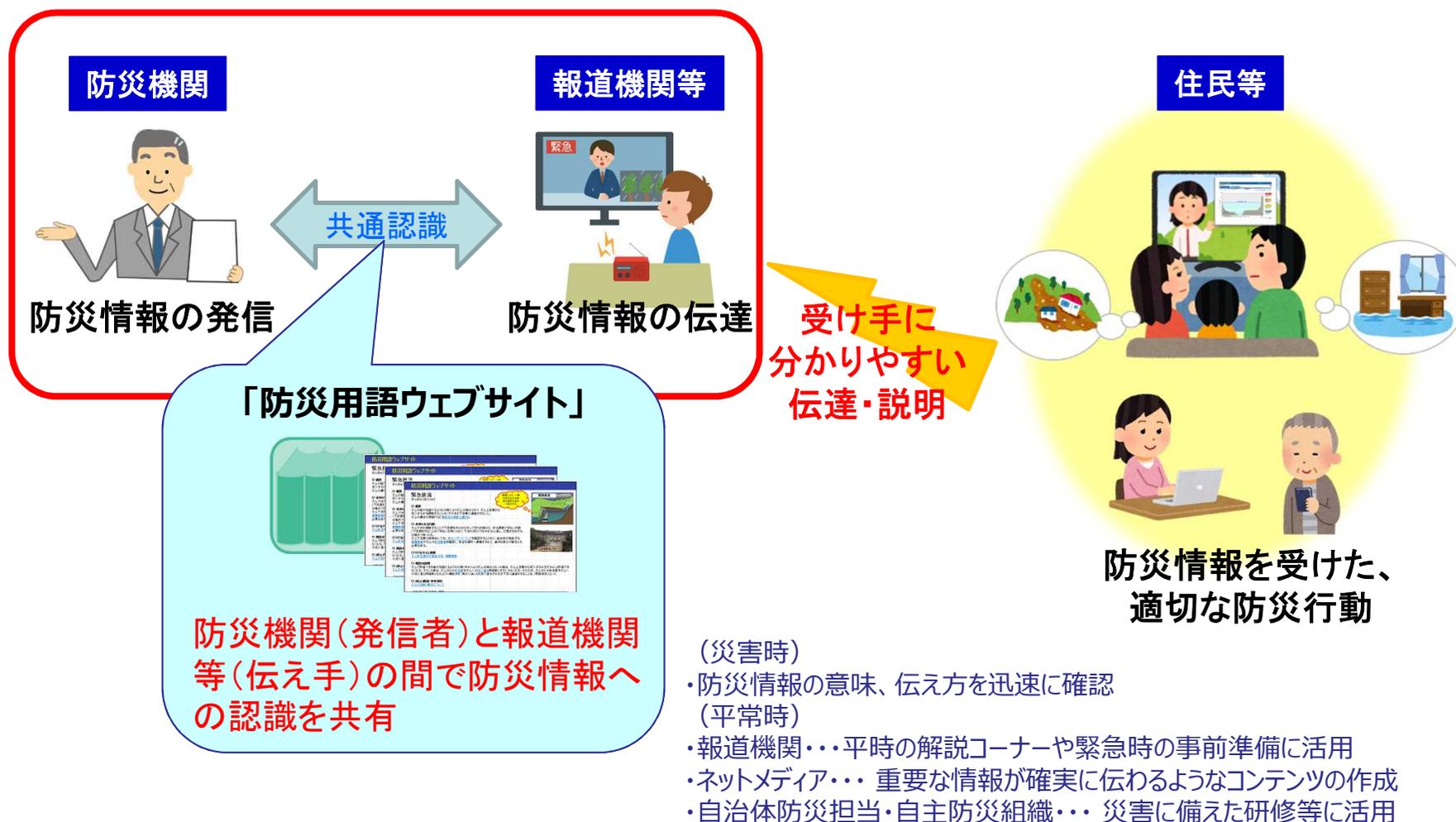


# 防災用語ウェブサイトについて

---

# 防災用語ウェブサイトについて

- 防災情報を住民などの受け手に分かりやすく伝え、適切な防災行動を促すためには、防災情報について、発信者（国、自治体）と伝え手（報道機関等）の間での共通認識が重要。
- 発信者と伝え手で防災情報への認識を共有するため、パソコンやスマートフォン等により、誰でもすぐに防災情報に用いられる防災用語の意味や伝え方などを検索できる「防災用語ウェブサイト」を作成する。



# 防災情報を伝える上での課題

- 防災情報は、非日常的な状況を伝える情報であり、受け手にとって、情報が示す状況の理解や比較が困難なことが多い。さらに、防災情報で用いられる用語の専門性が、受け手の理解を難しくしている。
- 防災用語に普段から同じ説明を付して使い理解を深めるとともに、災害時には、求められる行動を示す、一般的な表現に言い換えて伝える、イラスト・動画を用いる等の工夫により、防災用語の理解促進と分かりやすい伝達・説明を図る。

## 伝達上の課題

用語の伝える状況が理解できない  
例. 内水氾濫、高潮など

危険度が分からない  
例. 氾濫危険情報、土砂災害警戒情報など

言葉が難しい、聞き慣れない(専門用語等)  
例. 洪水、越水、危機管理型水位計など

聞き取りづらい、言葉が長い、誤解しやすい  
例. 異常洪水時防災操作、洪水など

## 防災用語ウェブサイトでの理解促進と伝え方の工夫

用語の意味の概略や説明を付して伝える **→概要**

内水氾濫→ 住宅地、アンダーパスなどで

雨水が排水できずにたまる“内水氾濫”

高潮→ 台風や低気圧の接近に伴い、

潮位が通常よりも大きく上昇する“高潮”

求められる行動を示す **→求められる行動**

氾濫危険情報→市町村からの避難情報を確認。洪水浸水想定区域内にいる人は、河川の水位を確認して自ら避難を判断。

平易な表現で伝える

洪水→「増水」または「氾濫」

越水→「堤防から水があふれる」

危機管理型水位計→「水位計」

**→概要・伝える際の留意点**

簡潔に誤解を与えないように伝える

異常洪水時防災操作→

◆事前の呼びかけ「ダムを超えようような大雨によりダムが満水となり、ダム上流側から流入する水を調節することなくそのまま下流側に通過させる“異常洪水時防災操作”」

◆危険が差し迫っているとき「緊急放流」

# 防災用語ウェブサイトに掲載するコンテンツ

## 防災用語ウェブサイト

### 用語 よみがな

国・自治体等が発表する、水害・土砂災害に関する情報や報道発表資料、記者会見、解説資料などで用いる用語を中心に掲載

#### ○ 概要

水害・土砂災害について普段接することのないような方でも、その用語の意味の概略がわかるような、専門用語をなるべく使用しない簡潔に説明。

メディアで繰り返し説明に使える長さで表現

#### ○ 画像・動画

その用語の概要が直感的にわかりやすい図、写真、動画、地図などを掲載。

#### ○ 求められる行動

その用語が伝えられるような状況において、今後注意すべき事項や、想定される行動。

非常時に伝えるべき、求められる行動を記載

#### ○ リアルタイム情報

[その用語に関連するリアルタイム情報が閲覧できるウェブページへのリンク](#)

すぐに現在の状態が調べられるようリアルタイム情報のページにリンク

#### ○ 用語の説明

その用語の意味についての正確な説明。また、情報を伝える際に理解しておくべき事項。説明文中の関連する用語については、その[用語へリンク](#)

#### ○ 情報を伝える際の留意点

用語を伝える際に誤解を与えないよう留意すべき事項や分かりやすく伝えるための使用方法。

#### ○ 詳しい解説・参考資料

[その用語に関連する解説ページへのリンク](#)

緊急の呼びかけ方、言い換えの表現、伝達の際の留意点など

# 防災用語ウェブサイトのイメージ

## 防災用語ウェブサイト

### 洪水

こうずい

#### ○ 概要

次の2つの意味がある。

- ①大雨により川が増水して流れている現象。
- ②大雨により川から水があふれて氾濫する現象。

#### ○ 求められる行動

[洪水浸水想定区域](#)など氾濫のおそれのある地域にいる人は、市町村からの避難情報を確認するとともに、[洪水予報](#)、[水位到達情報](#)、川の水位などの情報を確認する。

#### ○ リアルタイム情報

[洪水予報等の発表状況](#)

#### ○ 用語の説明

流域に大雨が降った場合、その水は川に集まり、川が増水します。土木分野においては、このような川が増水の現象(上記①)を指し、氾濫の発生の有無を問わず、河川が増水は洪水と呼ばれます。一方、一般用語としては、川が増水が進み、川から水があふれ、氾濫する現象(上記②)のみが多くの場合、洪水と呼ばれます。

#### ○ 情報を伝える際の留意点

①と②では、示している現象が異なり、受け手によって、状況を誤解するおそれがあるため、①については「増水」、②については「氾濫」と使い分ける。

#### ○ 詳しい解説・参考資料

[洪水予報・水位到達情報について](#)

(令和3年〇月〇日作成／更新)

※ ページのデザインや記載内容は、今後、変更となる可能性があります。



①増水



②氾濫

# 防災用語ウェブサイトのイメージ

## 防災用語ウェブサイト

### 内水氾濫

ないすいはんらん

#### ○ 概要

住宅地、アンダーパスなどで雨水が排水できずにたまる現象。

#### ○ 求められる行動

地下街や道路のアンダーパスなどの浸水しやすい場所にいる人は、速やかに地上に避難する。また、排水先の河川が増水し、氾濫するおそれがある可能性があるため、河川の情報や自治体からの防災情報に注意する。

#### ○ 用語の説明

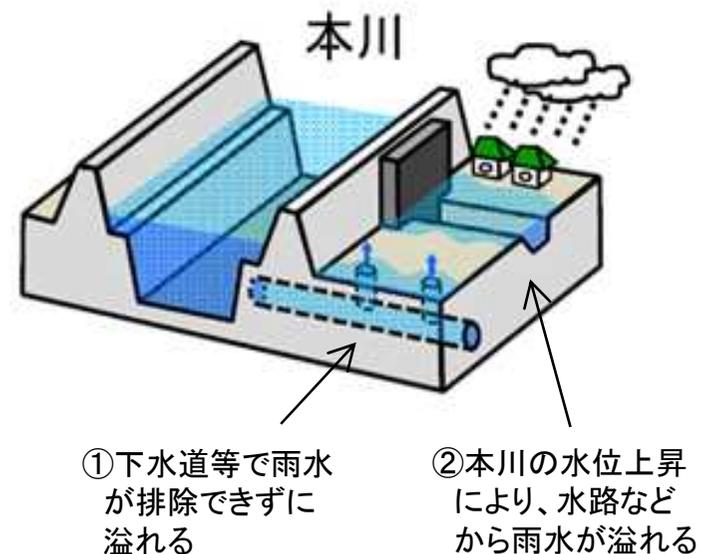
内水氾濫が発生する要因として、主に以下の2つがある。

- ①一時的に大量の降雨が生じた場合などに、下水道等の排水施設で雨水を排除できずに溢れ、住宅地等に水がたまることによる川から離れた場所でも発生することがある。
- ②水路や支川などが合流する先の河川の水位が上昇したことにより、水門が閉まったり、排水施設から河川に雨水を排除できなくなるなどにより、水路などが溢れ、住宅地等に水がたまることによる。

#### ○ 情報を伝える際の留意点

排水先の河川が増水している場合には、その河川の洪水予報や水位情報を確認する。

(令和3年〇月〇日作成／更新)



# 防災用語ウェブサイトのイメージ

## 防災用語ウェブサイト

### 高潮

たかしお

#### ○ 概要

台風や低気圧の接近に伴い、潮位が通常よりも大きく上昇すること。

#### ○ 求められる行動

海水が堤防を乗り越えたり、堤防が決壊して陸地が浸水するおそれが高まるため、海岸沿いには近づかないようにする。

[高潮浸水想定区域](#)内にいる人は早めに避難行動をとる。

#### ○ リアルタイム情報

[潮位観測情報\(気象庁ウェブサイト\)](#)

#### ○ 用語の説明

高潮は、主に以下の2つが原因となって起こる。

##### ① 吸い上げ効果

台風や低気圧の中心では気圧が周辺より低いため、気圧の高い周辺の空気は海水を押し下げ、中心付近の空気が海水を吸い上げるように作用する結果、海面が上昇する。気圧が1ヘクトパスカル(hPa)下がると、潮位は約1センチメートル上昇している。

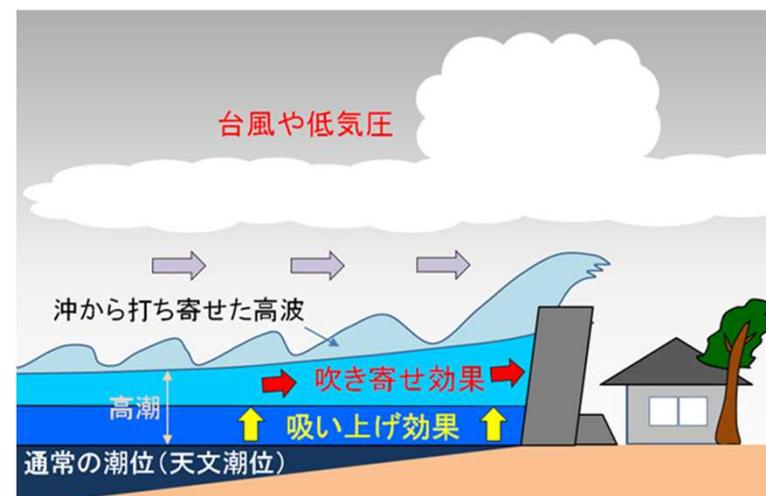
##### ② 吹き寄せ効果

台風や低気圧に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇する。風速が2倍になれば海面上昇は4倍になる。

#### ○ 詳しい解説・参考資料

[高潮\(気象庁ウェブサイト\)](#)

(令和3年〇月〇日作成／更新)



## 防災用語ウェブサイト

### 氾濫危険情報

はんらんきけんじょうほう

#### ○ 概要

川から、いつ水があふれ出してもおかしくない危険な状況であることを伝える情報。

#### ○ 求められる行動

警戒レベル4相当情報[洪水]。

市町村からの避難情報を確認。[洪水浸水想定区域内](#)にいる人は、河川の水位を確認して自ら避難を判断。

#### ○ リアルタイム情報

[「川の防災情報」\(洪水予報等の発表状況\)](#)

#### ○ 用語の説明

[洪水予報](#)または[水位到達情報](#)において、発表される情報の一つであり、[水位観測所](#)での観測水位が[氾濫危険水位](#)(レベル4水位)を超過した場合に発表される。

#### ○ 情報を伝える際の留意点

危険度を明確にするため、「[避難指示](#)の発令の目安」、「警戒レベル4相当」などを付して伝える。

#### ○ 詳しい解説・参考資料

[洪水予報・水位到達情報について](#)

(令和3年〇月〇日作成／更新)

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報	警戒レベル相当情報	洪水に関する情報
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保※1	5 相当	氾濫発生情報
~~~~~<警戒レベル4までに必ず避難!>~~~~~					
4	災害の おそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	4 相当	氾濫危険情報
3	災害の おそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難※2	高齢者等避難	3 相当	氾濫警戒情報
2	気象状況悪化	自ら避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	2 相当	氾濫注意情報
1	今後気象状況悪化 おそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)	1 相当	

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない  
 ※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングである  
 (注) 避難指示は、現行の避難勧告のタイミングで発令する

# 防災用語ウェブサイトのイメージ

## 防災用語ウェブサイト

### 土砂災害警戒情報

どしゃさいがいけいかいじょうほう

#### ○ 概要

命に危険が及ぶような土砂災害がいつ発生してもおかしくない危険な状況であることを伝える情報。

#### ○ 求められる行動

警戒レベル4相当情報[土砂災害]。  
市町村からの[避難情報](#)を確認するとともに、土砂災害警戒情報は、市町村単位で発表される情報のため、[土砂災害警戒区域](#)にいる人は、自分がいる場所の[土砂キキクル\(危険度分布\)](#)を確認して、遅くとも該当領域に「非常に危険」(警戒レベル4相当)が出現した時点で速やかに避難を開始する。

#### ○ リアルタイム情報

[気象警報・注意報\(気象庁ウェブサイト\)](#)

[土砂キキクル\(気象庁ウェブサイト\)](#)

#### ○ 用語の説明

土砂災害に関する[防災気象情報\(警戒レベル相当情報\)](#)。市町村単位で都道府県と気象台が共同で発表する。過去に発生した土砂災害をくまなく調査した上で、命に危険が及ぶような土砂災害がすでに発生しているにもかかわらずという[土壌雨量指数](#)の基準を設定し、避難にかかる時間を考慮して2時間先までに基準に到達すると予測されたときに速やかに発表される。

#### ○ 情報を伝える際の留意点

危険度を明確にするため、「[避難指示](#)の発令の目安」、「警戒レベル4相当」などを付して伝える。

#### ○ 詳しい解説・参考資料

[土砂災害警戒情報・土砂キキクル\(大雨警報\(土砂災害\)の危険度分布\)\(気象庁ウェブサイト\)](#)

(令和3年〇月〇日作成／更新)

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報	警戒レベル相当情報	土砂災害に関する情報
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保※1	5 相当	大雨特別警報 (土砂災害)
~~~~~<警戒レベル4までに必ず避難!>~~~~~					
4	災害の おそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	4 相当	土砂災害警戒情報
3	災害の おそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難※2	高齢者等避難	3 相当	大雨警報 (土砂災害)
2	気象状況悪化	自ら避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	2 相当	氾濫注意情報
1	今後気象状況悪化 おそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)	1 相当	

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない

※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングである  
(注) 避難指示は、現行の避難勧告のタイミングで発令する

# 防災用語ウェブサイトのイメージ

## 防災用語ウェブサイト

### 国管理河川の洪水の危険度分布

くにかんりかせんのこうずいのきけんとぶんぷ

#### ○ 概要

川の氾濫の危険度の高まりを、地図上で概ね200mごとに、兩岸別に色で示した情報。

#### ○ リアルタイム情報

[国管理河川の洪水の危険度分布](#)

#### ○ 用語の説明

洪水に関する[防災気象情報\(警戒レベル相当情報\)](#)。

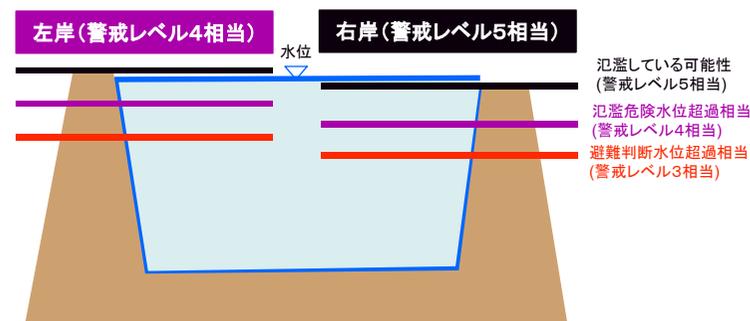
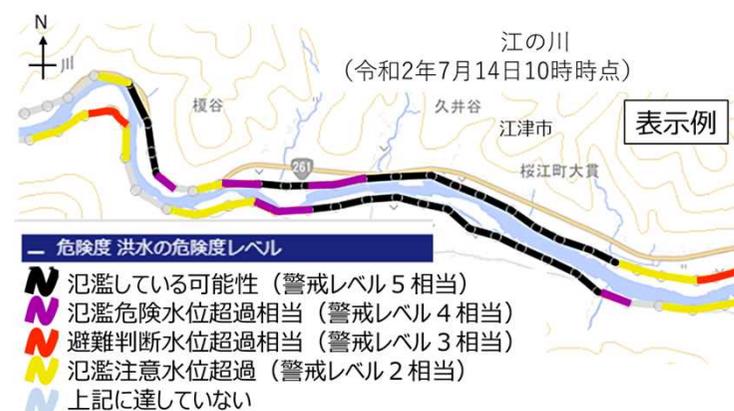
国管理河川における洪水の危険度分布。

国が管理する河川を対象に、縦断的な水位(水面形)を計算により推定し、左右岸それぞれ200mごとの洪水の危険度を色分け表示する。配色は警戒レベルの配色に準ずる。

#### ○ 情報を伝える際の留意点

現地での観測値ではなく、地形や水位観測所での水位などからの計算結果を基に表示しているため、実際の状況とは異なる可能性があることを併せて伝える。

(令和3年〇月〇日作成／更新)



堤防の断面と危険度レベルの一例

# 防災用語ウェブサイトのイメージ

## 防災用語ウェブサイト

### 緊急放流

きんきゅうほうりゅう

#### ○ 概要

ダム能力を超えるような大雨によりダムが満水となり、ダム上流側から流入する水を調節することなくそのまま下流側に通過させること。ダムの操作の用語では「[異常洪水時防災操作](#)」。

#### ○ 求められる行動

ダムで洪水調節することで下流部を洪水から守ってきた状態から、洪水調節できない状態（下流部を守ることができない状態）となり、下流の河川では水位が上昇し、氾濫するおそれ極めて高くなる。ダム下流部の地域においては、[洪水ハザードマップ](#)を確認するとともに、自治体が発表する[避難情報](#)やダムの[放流警報](#)を確認し、安全な場所へ避難するなど、適切な防災行動をとる必要がある。

#### ○ リアルタイム情報

[ダム放流通知の発表状況](#)、[避難情報](#)

#### ○ 用語の説明

ダムで貯留できる能力を超えるような大雨・洪水によりダムが満水となった場合、ダム上流側から流入する水をそれ以上貯留できなくなる。そうした場合、ダムからの放流量をダムへの流入量と同程度とするしかなくなる。そのため、ダムからの放流量をダムへの流入量と同程度となるように増加させ、満水に達したら流入量をそのまま下流に通過させることを、「緊急放流」という。

#### ○ 情報を伝える際の留意点

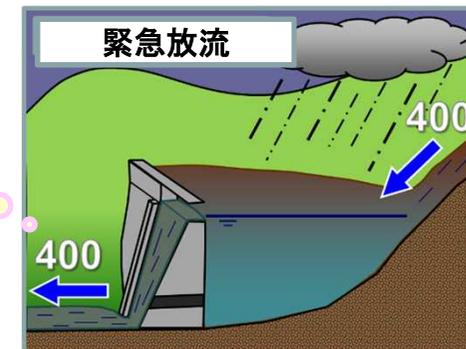
緊急時に行動を促すために呼びかけ的に用いる場合は「緊急放流」が有効であるが、ダム操作に対する正しい理解を促進するため、時間的に余裕があるときに、緊急放流の意味や影響範囲などの説明を行う。

#### ○ 詳しい解説・参考資料

[ダムの役割・操作について](#)

（令和3年〇月〇日作成／更新）

動画により、一連の流れをその前後の操作も含めて表示する



# 防災用語ウェブサイトのイメージ

## 防災用語ウェブサイト

### 異常洪水時防災操作

いじょうこうずいじぼうさいそうさ

#### ○ 概要

ダム能力を超えるような大雨によりダムが満水となり、ダム上流側から流入する水を調節することなくそのまま下流側に通過させる操作をいう。

#### ○ 求められる行動

ダムで洪水調節することで下流部を洪水から守ってきた状態から、洪水調節できない状態（下流部を守ることができない状態）となり、下流の河川では水位が上昇し、氾濫するおそれ極めて高くなる。

ダム下流部の地域においては、[洪水ハザードマップ](#)を確認するとともに、自治体が発表する[避難情報](#)やダムの[放流警報](#)を確認し、安全な場所へ避難するなど、適切な防災行動をとる必要がある。

#### ○ リアルタイム情報

[ダム放流通知の発表状況](#)、[避難情報](#)

#### ○ 用語の説明

ダムで貯留できる能力を超えるような大雨・洪水によりダムが満水となった場合、ダム上流側から流入する水をそれ以上貯留できなくなる。そうした場合、ダムからの[放流量](#)をダムへの[流入量](#)と同程度とするしかなくなる。そのため、ダムからの放流量をダムへの流入量と同程度となるように増加させ、満水に達したら流入量をそのまま下流に通過させる操作を行うことになるが、これを「異常洪水時防災操作」という。以前には「[ただし書き操作](#)」と表現していた時期もあった。

#### ○ 情報を伝える際の留意点

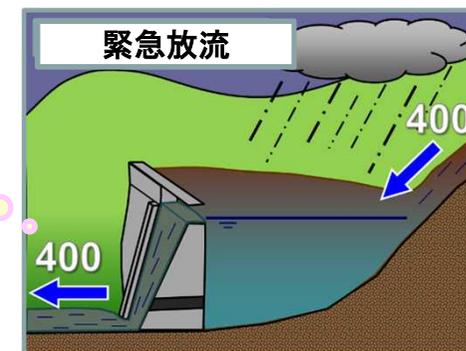
緊急時に行動を促すために呼びかけ的に用いる場合は、短いワンワードでその意味が受け手に適切に理解されるようにすることが重要であり、「[緊急放流](#)」を用いて呼びかける。

#### ○ 詳しい解説

[ダムの役割、操作について](#)

（令和3年〇月〇日作成／更新）

動画により、一連の流れをその前後の操作も含めて表示する



# 防災用語ウェブサイトのイメージ

## 防災用語ウェブサイト

### 危機管理型水位計

ききかんりがたすいいけい

#### ○ 概要

設置された地点の川の氾濫の危険度を確認するための水位計。

#### ○ 求められる行動

川の増水により観測水位が**危険水位**を上回った場合、氾濫による浸水等のおそれがあるため、自ら避難の判断を行う必要がある。

#### ○ リアルタイム情報

[国土交通省「川の防災情報」](#)

#### ○ 用語の説明

常時観測している水位計とは異なり、河川が増水した時の水位観測に特化し、機器の小型化や通信機器等のコストを低減した水位計。**洪水予報**または**水位到達情報**は、**水位観測所**の水位を基に**受け持ち区域**全体の氾濫の危険度を示すのに対し、危機管理型水位計は、主に氾濫が発生しやすい箇所に設置されているため、その箇所での氾濫の危険度を直接把握することができる。「川の防災情報」では、危機管理型水位計の観測水位と併せて、**危険水位**及び**氾濫開始水位**を確認することができる。予め、自宅付近の水位計や、氾濫が発生した場合の影響を確認しておくことが重要。

#### ○ 情報を伝える際の留意点

機器の名称は「危機管理型水位計」であるが、通常水位計を含め、「水位計」と呼ぶ。特に機器の区別が必要な場合には、「危機管理型水位計」、「通常水位計」と使い分ける。

#### ○ 詳しい解説・参考資料

[雨量・水位の観測について](#)

(令和3年〇月〇日作成／更新)



危機管理型水位計



通常水位計

## 防災用語ウェブサイト

### 洪水予報

こうずいよほう

#### ○ 概要

川の水位の状況や今後の見込みを周知するために発表される情報。

#### ○ 求められる行動

市町村からの[避難情報](#)を併せて確認する。  
また、洪水予報の発表状況を参考に、住民自らも避難行動を判断する。

#### ○ リアルタイム情報

[洪水予報等の発表状況](#)

#### ○ 用語の説明

洪水に関する[防災気象情報\(警戒レベル相当情報\)](#)。国の[洪水予報河川](#)

では国土交通省の河川事務所等と気象台、都道府県の洪水予報河川では都道府県と気象台が共同で発表する。[基準観測所](#)の観測水位が洪水予報発表の[基準水位](#)を超過、または超過が予測されるなどの場合に、現時点の観測水位と今後の予測水位などを付して発表する。「[指定河川洪水予報](#)」とも呼ばれる。情報の種類には、「[氾濫注意情報](#)(警戒レベル2相当情報[洪水])」、「[氾濫警戒情報](#)(警戒レベル3相当情報[洪水])」、「[氾濫危険情報](#)(警戒レベル4相当情報[洪水])」、「[氾濫発生情報](#)(警戒レベル5相当情報[洪水])」がある。

#### ○ 情報を伝える際の留意点

発表対象は[洪水予報河川](#)に指定された河川に限られるため、洪水予報河川以外の中小河川等の氾濫の危険を[水位到達情報](#)や[洪水キキクル\(危険度分布\)](#)で確認の上、地域の状況を総合的に伝える。

#### ○ 詳しい解説・参考資料

1. [法令上の位置づけ](#)
2. [発表体制](#)
3. [発表される予報の種類・パターン、警戒レベルとの対応](#)
4. [発表区域](#)
5. [基準水位と設定方法](#)
6. [洪水予報文例](#)
7. [全国の洪水予報河川一覧\(諸元\)](#)

(令和3年〇月〇日作成／更新)

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報	警戒レベル相当情報	洪水に関する情報
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保※1	5 相当	氾濫発生情報
<警戒レベル4までに必ず避難!>					
4	災害の おそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	4 相当	氾濫危険情報
3	災害の おそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難※2	高齢者等避難	3 相当	氾濫警戒情報
2	気象状況悪化	自ら避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	2 相当	氾濫注意情報
1	今後気象状況悪化 おそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)	1 相当	

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない  
 ※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じて、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングである  
 (注) 避難指示は、現行の避難勧告のタイミングで発令する

以下、洪水予報の  
詳細解説を掲載

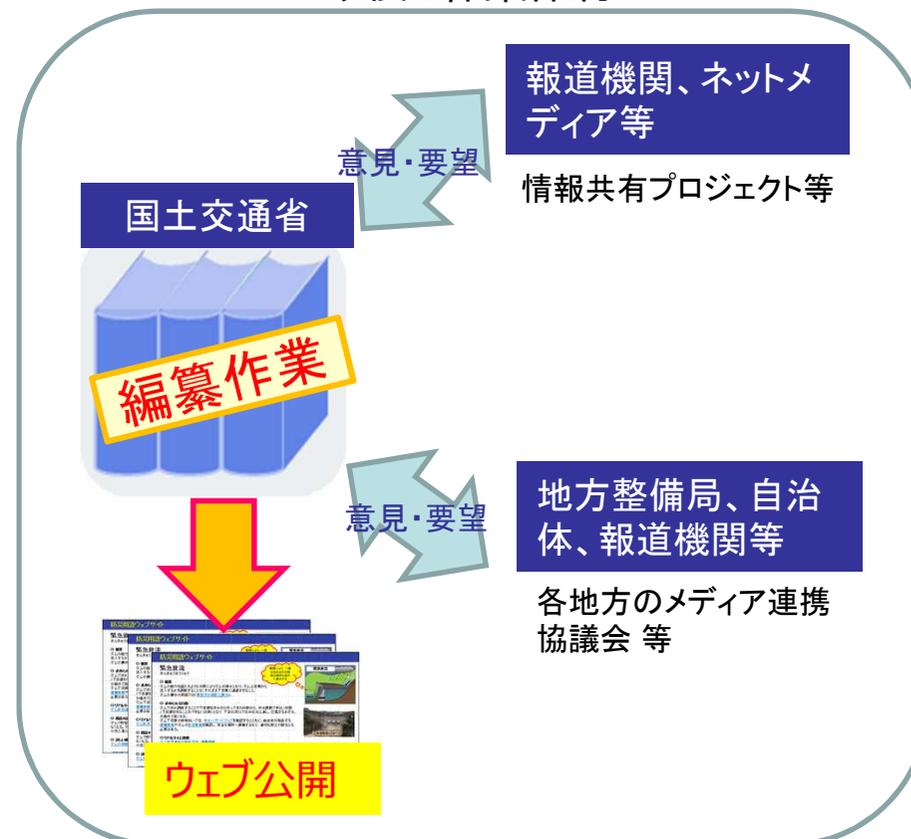
# 防災用語ウェブサイトの編纂作業について

- 今年度末までに掲載する用語（100語程度）を選定し、防災用語ウェブサイトの素案を作成。
- 情報共有プロジェクトや各地方の地域連携メディア協議会を活用して、報道機関、ネットメディア、自治体等からご意見をいただき、用語と解説のブラッシュアップや内容を充実。
- 今年の出水期までに「防災用語ウェブサイト」試行版のインターネット上での公表を目指す。

## 今後の作業スケジュール（案）

年・月	作業内容等
2021	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局において「用語」「解説」の編纂作業               <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 用語については、災害時によく使用される100語程度を選定し作業を進める</li> </ul> </li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>第5回検討会（本日）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>【議題】 報告書（案）について</li> <li>防災用語ウェブサイトについて</li> </ul> </li> </ul>
4～5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討会や各地方での意見等を踏まえ、防災用語ウェブサイトを事務局において編纂               <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 情報共有プロジェクト、メディア連携協議会等で意見収集</li> </ul> </li> </ul>
6月～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試行版をウェブサイトで公表               <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;以降、適宜内容の見直し、情報を追加&gt;</li> </ul> </li> </ul>

## 今後の作業体制



# 防災用語ウェブサイトの継続的な改善に向けて

- 社会変化や情報通信技術の進歩に応じて、防災情報の伝え方を改善し続けていくことが重要。
- 防災情報が受け手にとってより理解しやすいものとなるよう、ウェブサイトの公表後も、訓練や研修などで用語理解を深めた上で、実際の災害での活用やその後の振り返りを通じて、適宜、記載内容の効果や改善点を整理する。
- 加えて、メディアとの意見交換やアンケート調査などにより、防災用語の理解度や防災情報の効果の実態把握に努め、その結果を伝え方などに反映し、継続的な改善を図る。

## 防災用語ウェブサイト



利用者からの質問・意見、アクセス分析等による効果の実態把握

## 自治体、メディア等との意見交換



大規模氾濫減災対策協議会、情報共有プロジェクト、地域メディア協議会 など

## 防災情報・防災用語の継続的な改善

## 訓練・研修等を通じた理解促進



各種研修、講習会等を通じた理解促進  
地域の防災リーダーの育成

## 実際の災害時の活用、検証



災害時における情報発信、効果等の検証  
防災情報や災害危険度等の理解度の確認